

郷土文学資料センターだより

創刊号 2003年 4月

創刊の辞 - 熊本守雄

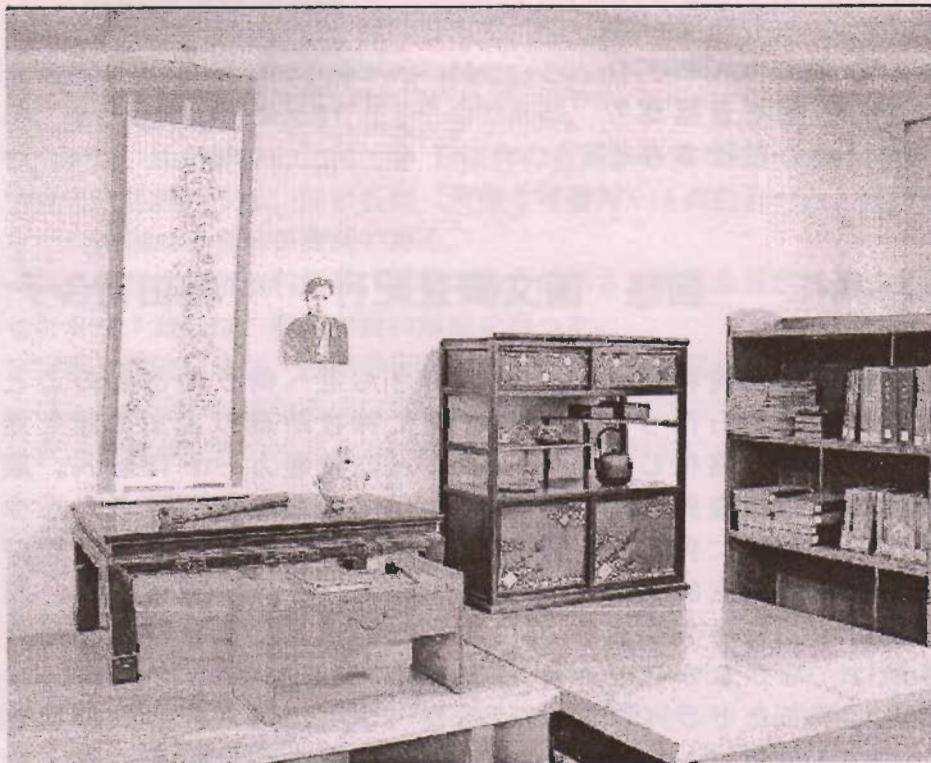
山口県立大学の前身である山口女子大学に、附属郷土文学資料センターが設置されたのは昭和61年のことで、5月15日（木）に開所式が行われました。その時に発行されたパンフレットには「本県出身文学者及び本県に関係のある文学資料の調査、収集、整理、保存、展示を行うことにより、郷土の貴重な文学資料の流出、散佚を防止し、大学における文学の研究・教育を一層推進するとともに、広く県民に公開し、学芸の振興を図る」と設置の趣旨を述べております。

その後、17年の間に、運営協議会の委員ならびに県下各地の協力員の方々の厚いご支援もあって、今や約13,000点を超える資料を、当センターにご寄贈頂いております。

又、その間、毎年、県下各地で公開講座（「ふるさとの文学」）を開催してきました。更には、多くの方々のご助力を頂いて、A4判の306ページからなる『山口県文学年表 年表編・解説編』を平成13年3月に出すこともできました。これは当センターが行ってきた調査活動の集大成として企画されたものでした。

ただ、このような当センターの活動も、当方の広報不足といった怠慢もあって、県民の方々には、充分なご理解を頂いているとはいえない状況にあります。

当センターの活動内容の一端でもご理解頂けたら、と考え、この度、会報を発行することと致しました。忌憚のないお気付きをお寄せ頂きたく存じます。 (センター所長)



嘉村磯多 遺品 (一部)

センターは磯多の資料館 - 和田 健

昭和61(1986)年4月1日、郷土文学資料センターがオープンして、今年は17年目に当たる。場所は大学図書館前だったか、開所式には嘉村イクヲさんも列席しておられたように記憶する。それは私の斡旋で嘉村磯多の遺品がすでに寄贈されていたからだ。嘉村家からは書籍や手紙、原稿、その他身の回り品なども提供され、トラックを借りて運ばれた。大学からは今は亡き上野さち子先生が出向かれ、案内は地元の富永繁久さんがしたように後で聞いた。その後もセンターへの寄贈は続いた。

中原中也是湯田温泉という立地条件から、観光関係者が早くから関心を示した。そのことは中也詩碑の建立に携わった一人として、実感している。そしてそれは中原中也記念館として、平成6年2月17日の開館へと実を結ぶ。磯多にはそうした縁も華やかさも無い。とって、磯多文学は永遠に残ることは疑う余地はない。

嘉村磯多に私が心ひかれたのは、磯多在世中からで、あこがれて手紙を書いてみようかと考えたこともある。没後、ちとせ帰山と知るや、わざわざ文学友達と二人で仁保の生家を自転車で訪ねた。そのときは父親の若松さんと

会って話をした。

後に山口市役所に奉職して、嘉村家と接触する機会にめぐまれ、建碑その他顕彰にも一役買わせてもらうようになった。なかでも昭和37(1962)年の三十回忌に当たり、県立山口博物館で「嘉村磯多追悼展」を開催したことはいい思い出である。五百人の入場者があった。一方、その時、私が司会した文学座談会もテーブルに取っているの、探してセンターに納めたい。

嘉村磯多顕彰会が発足した現在、折角の資料を生かすためにも、私たちは磯多を更にアピールしたいものである。

(センター運営協議会委員)



嘉村磯多肖像 31歳

潮の香と共に - 回想・国文調査紀行 - 福田百合子

山口女子大学附属郷土文学資料センター発足と共に、それ以前から行っていた県内各地の資料調査が本格化し、学生を動員しての夏休みの調査旅行が恒例となりました。そのために免許を取られたような熊本教授の暴走的車両を先頭に、清原・川口・安光各先生方の車を連ねての移動は、なかなかスリリングで、且つ期待に満ちたドライブでした。

印象的なのは、豊北町阿川の伊藤忠

芳宮司さん宅へ伺ったときのこと。拝殿の床に神社所蔵の古文書類を並べ、一冊ごとに整理カードに記入。座り続けの膝が痛くなる頃、陽ざしも少しかげり始めます。むずむずする気持ちを抑えかねて、一同海辺に直行。潮の香に誘われ、裸足になり砂の感触を楽しみました。以下省略。

もう一カ所は、瀬戸内側の柳井伊保庄・村上文庫の調査です。村上氏の名称と所在立地そのものが、村上水軍を

連想させ、瀬戸の海風を感じさせます。

村上家所蔵本については、その数年まえに中世王朝物語「あきぎり」の発見と翻刻という有り難いご縁に恵まれていました。また村上家隣地在住の御一族・村上省吾氏による文庫目録が既に整理されているものの、実際に触れるのは始めてのことです。書庫に続く茶室で、調査カードの作製に励みました。床の間に、先代可卿氏の歌の師・若山牧水の書が掛かっていました。開け放った障子の彼方から、潮の香が少し蒸し暑く、夕風の気配でした。牧水

の歌碑が立つ烏島の影に、波と干潟が広がって、すぐ目の前に見えました。潮の香をたっぷりと胸に、貴重な古文書の数々に歓声を上げたあの夏の日々……。

願いは一つ。これらの資料が、どうか散逸しませんように。資料の保存・伝承・研究・公開のための県立センターの早急な整備実現に向かって、力を尽くしたいものです。

(センター運営協議会委員
・ 中原中也記念館館長)

資料展示紹介

山口鷺流狂言資料展示――平成14年 5月14日～6月28日
田上菊舎関係資料展示―― 9月18日～11月8日
山口県内の地名等に因む――平成15年 1月16日～3月20日
於：3号館1階――附属郷土文学資料センター

山口鷺流狂言に関する資料展示と資料解説 稲田秀雄

平成14(2002)年5月14日から6月28日まで、郷土文学資料センターにおいて、本学所蔵の山口鷺流狂言に関わる資料の展示が行われた。これらの資料は、現在、当センターの蔵書ではないが、本学蔵貴重書の一部をなすものである。

展示されたのは、山口鷺流の元祖・春^{しゅん}日庄作の自筆本をはじめとする狂言本33点、小舞集4点、間狂言関係資料5点、狂言名寄(天保3年書写)1点の計43点。江戸末期から昭和初期にかけての多様な狂言関係資料である。

その他、山口市歴史民俗資料館蔵『狂言之絵』のパネル写真も展示に彩りを添え、期間内の5月14日と6月7日には、稲田が資料解説を行った。

山口に現存する鷺流狂言は、長州藩狂言方の流れを汲み、鷺伝右衛門派の系統に属する。昨年1月には、その伝承に携わる山口鷺流狂言保存会が法政大学能楽研究所より催花賞を受賞しており鷺流狂言が大方の注目を浴びつつある中で、時宜にかなった企画でもあった。

(センター研究員)

菊舎関係資料の展示について 熊本守雄

『田上菊舎全集』上下(和泉書院、2001年)をライフワークとしておまとめになった本学名誉教授の故上野さち子先生の御遺族の御厚意により、当センターに多くの書籍・資料が寄贈されました。そのお披露目を兼ねて、先生の御命日に合わせ、平成14年9月18日から11月8日の間、田上菊舎関係の資料を中心に展示を行いました。菊舎自筆書簡(断片)、菊舎

の姪・中川小鶴五歳の時の書「万寿」の他、全集の底本となさった本荘家本「改称賀章集」以下38点の複写資料を、本学3号館1階にある附属郷土文学資料センターの展示室で一般公開しました。

遠くは関東地方から、県内でも豊北町の菊舎顕彰会の方々をはじめとして、下関市などからも多くの方々にお越しいただきました。
(センター所長)

山口県内の地名等に因む - 小説・詩歌・句集類 野口義廣

今回(1月16日~3月20日)の小展示は、新春にふさわしくセンターが所蔵している作品の中から、山口県内の“地名”等にちなむものを取り上げました。作品の命名における作者の思いは様々でありましょうが、その心の深奥には“地霊”に対する“歌枕”的なものの、自らなる“言霊”の発揚への願いが込められているものと思われます。その好例が中原日山さんの句集『東岐波』に見られます。そこには“句枕”なる言葉があり、作者の思いが那邊にあるかが窺われます。なお、今回は雑誌の類いは除外しました。それらにつきましては、いづれあらためて取り上げる予定です。
(センター研究員)

公開講座 ----- ふるさとの文学

平成14年度の報告

(大島郡久賀町)

- 10月5日 宇野千代の世界 - 福田百合子
10月12日 鷺流狂言の世界 - 稲田秀雄
10月26日 山頭火の世界 - 田村悌夫
11月2日 山口県の文学者 - 清原万里
11月9日 防長学事始め - 野口義廣
11月16日 防長の歌枕 - 熊本守雄

平成15年度のご案内

所：豊田町文化教育センター

時：土曜日午前10:30~12:00

- 10月4日 宇野千代の世界 - 福田百合子
10月11日 山頭火よもやま話 - 和田健
10月18日 鷺流狂言の世界 - 稲田秀雄
10月25日 上田堂山と『延齡松詩歌集』の世界
- 野口義廣
11月1日 防長の歌枕 - 熊本守雄

編集後記 ▲皆様方の御厚意御尽力の賜物として沢山の郷土文学資料が集まりました。その一端を紹介するという意味も込めての会報を年2回を目処に発行することと致します。お気付き・ご意見などお寄せ下さい。▲昨年11月11日早朝、清原万里・当資料センター研究員が急逝されました。享年42歳の、余りにも早いご逝去に関係者一同呆然としました。ご専門は日本近代文学。パソコンに大変お詳しく、平成13年3月刊行『山口県文学年表』の編集作業の一番やっかいな仕事は清原さんの御尽力の賜物とっていいほどです。心よりご冥福をお祈り申し上げます。▲イラク戦争では多くの犠牲者が出たようです。あのMesopotamiaの地において。世界遺産略奪の報道ともども心の痛む昨今、平和の到来と秩序の回復とを願わないではられません。(T)

■編集発行：山口県立大学附属郷土文学資料センター (〒753-8502 山口市桜島3-2-1)

TEL. (083) 928-0211 FAX. (083) 928-2251

■発行日：2003(平成15)年4月30日